

人権作文

一緒に卒業すっばい！

阿蘇清峰高校 二年（現三年）

佐藤 周平

自分は、阿蘇市立一の宮中学校出身である。中学校を振り返ればいろいろな思い出がある。まず、入学式、新しい少し大きな制服に身を包み入場した。小学校では私服だったせいか、周りと格好を合わせるということに少し胸がはずんだ。クラスに入ると見慣れない顔に不安になった。

自分は、少しシャイなところがあった。部活はバスケットに入った。入学式から一年が過ぎ、二年生になった。二年生になると友達もでき、楽しかった。修学旅行では飛行機に乗ったので楽しくなった。三年生になった。最初はバスケットに集中し、力をつけていった。それなりに強くなり阿蘇郡市中体連では優勝ができ、県中体連にも出場できた。県のレベルは高かった。一回戦から県一位の玉名中とだった。

昨年度の阿蘇市人権作文集『かけはし』の作品の中から一部を紹介します。

皆さんもぜひ、家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

練習試合は何度もしたことはあるが、やっぱり強かった。でも、チームというものを学んだ。ベンチからの声、コート上での仲間の声、なんとなく一つになっていた気がした。最後は、涙でぐちゃぐちゃになった顔でボールを追い、コートを走り回ったのを覚えている。残念なことに一回戦で負けてしまった僕たちは、泣いた。夢のベスト四になれなかったからではなく、もう同じメンバーでバスケットをする事ができないからだだった。

それから何ヶ月かたった時だった。僕は荒れた。周りが進路のことで動き出したことで不安もあったし、そのことを話すのが恥ずかしくて強がっていたのかもしれない。先生たちともめることもあったし、六、七人のメンバーで悪さばかりしていた。そんな僕たちを相手する先生も生徒もいなくなった。最初は楽しかった。でも、周りが進路を決めていくのを見てみると、

さみしくなった。しかし、そんな僕たちに真正面から話してくれる先生が一人いた。最初は心を開けずに強がっていたが、その先生からの声かけもあり、進学が近くなった僕たちは作文や面接の練習に取り組むようになっていた。

高校に進学した。一年生の三学期は進級のための補習などがきつくて、その影響もあって、二年生の四月、五月の間はずっときつかった。自分のことがよく分からなかった。しかし、そんな自分に声をかけてくれる友達がいいた。「このクラスで一緒に卒業すっばい！」と言ってくれたことで、ふっ切れた気がした。将来のことで話に乗ってくれる先生もいた。「勉強すれば進学だってできる。」と言われ、やる気がわいた。そのうち、中学校時代に興味を持っていた進路に進んでみよう、という思いを抱くようになった。まじめに勉強に取り組めず、考えの外に

追いやっていた夢が、また浮かび上がってきた。

今、振り返ってみると以前の自分は誰かがするから自分もする、という生き方をしていたように思う。高校にも周りが行くから自分も行く、という感じだった。自分の意思をもっていないかったし、自分の気持ちをおつけられるものがなかったと思う。そうではなく、自分をもっと大切にすべきだったと思っている。今は、やりたいことも見つかり、勉強にも部活動にも取り組み、高校生活を一生懸命に頑張っている。バスケットから学んだチームというもの。そして、中学、高校で出会った先生たちや友達。これらの出会いに感謝している。そして、今はクラスというチームと一緒に卒業に向かってお互いに支え合っている。

平成二十二年

阿蘇市人権作文集

「かけはし」より

塗装・防水工事・メンテナンスまで

井上塗装

〒869-2302 熊本県阿蘇市三久保448番地22

Web <http://www.aso-inoue.com/>

E-mail info@aso-inoue.com

受付 平日8:30～18:00 ※土日祝日は事前連絡によりOK

綺麗になる

資産価値



屋根・外装塗装
防水全般
リフォーム

0967-32-1501